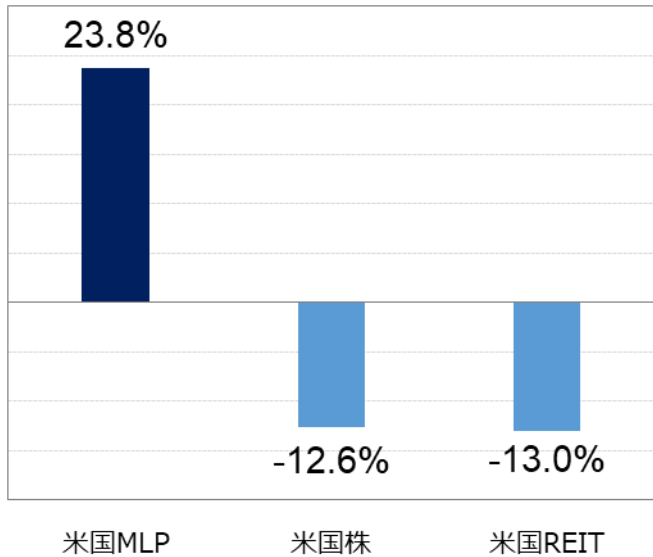




2022年初来の米国MLPは堅調なパフォーマンス

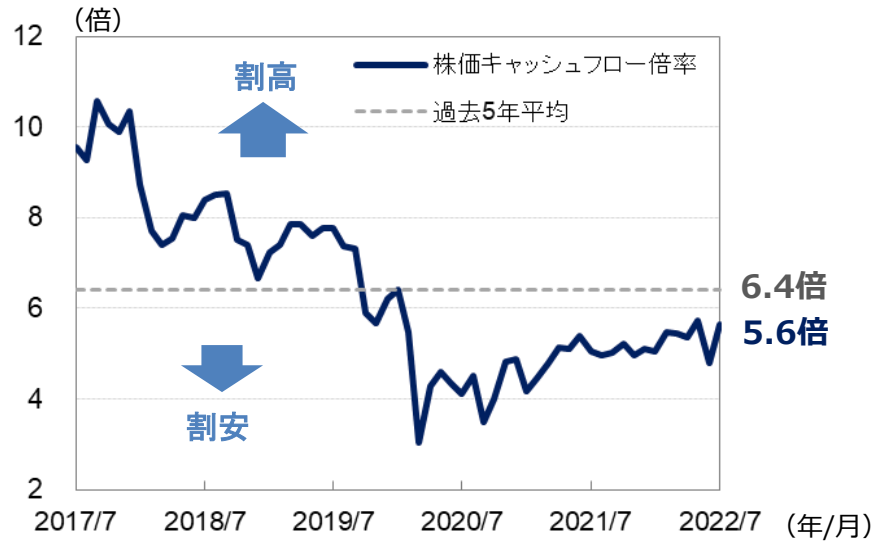
- 米国MLPは、エネルギー価格上昇による投資家センチメントが改善したことや堅調な業績等を背景に年初来で23.8%上昇しています。足元では世界経済の減速懸念によるエネルギー需要の動向に注目が集まっていますが、今後については相対的に高い配当利回りが米国MLPの下支え要因となることが期待されます。
- 米国MLPのバリュエーション（株価キャッシュフロー倍率）は、2022年7月末時点では5.6倍と、過去平均を下回る割安な水準にあり、魅力的な投資対象と考えられます。

米国の主要株価指数の2022年初来騰落率



（出所）ブルームバーグ（期間）2021年12月末～2022年7月末
 ※米国MLP：アレリアンMLP指数、米国株：S&P500指数、米国REIT：FTSE/NAREIT
 オール・エクイティREIT指数、すべて配当込み

米国MLPのバリュエーション*



*バリュエーションは株価キャッシュフロー倍率（＝直近株価／予想キャッシュフロー（当年度））1株当たりのキャッシュフローの何倍まで株価が買われているかを示す

（出所）ブルームバーグ（期間）2017年7月末～2022年7月末
 ※米国MLP：アレリアンMLP指数



2022年初来の米国MLPは米国株・REITを上回る堅調なパフォーマンス。足元の米国MLPのバリュエーションは過去5年平均を下回る割安な水準。

次号はMLPの利益見通しと株主還元策をご紹介します

●当資料は、説明資料としてフランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社（以下「当社」）が作成した資料です。●当資料は、当社が各種データに基づいて作成したのですが、その情報の確実性、完結性を保証するものではありません。●当資料に記載された過去の成績は、将来の成績を予測あるいは保証するものではありません。また記載されている見解、目標等は、将来の成果を保証するものではなく、また予告なく変更されることがあります。●この書面及びここに記載された情報・商品に関する権利は当社に帰属します。したがって、当社の書面による同意なくして、その全部もしくは一部を複製し又その他の方法で配布することはご遠慮ください。●当資料は情報提供を目的としてのみ作成されたもので、証券の売買の勧誘を目的としたものではありません。●フランクリン・テンプレトン・ジャパン株式会社（金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第417号）はフランクリン・リソース・インク傘下の資産運用会社です。